

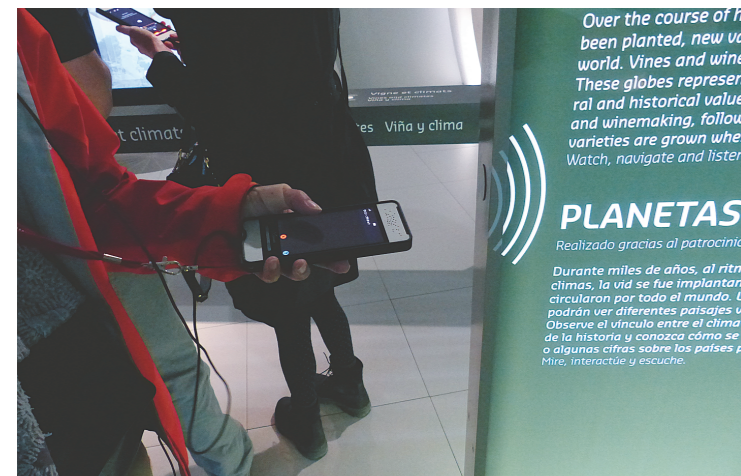
# 世界のワインがあつまるワイン博物館

“La Cité du Vin”「ワイン博物館」は2016年6月にオープンしたばかりのワインに関する全てを紹介する博物館です。ガロンヌ河沿いに建てられたこの近代建築では、フランスのワインはもちろんのこと、世界中で作られているワインの魅力に触れることができます。

## 不思議な形の外観

写真はワイン博物館の外観です。この不思議な形、みなさんは何をイメージしますか？ これはワインのカラフ、グラスに注がれているワインやぶどうの木の枝などを思わせる造りになっています。

入場する前から訪問者を楽しませてくれるワイン博物館。これは外観だけでなく、館内の展示も期待できそうです。それでは、実際に中に入ってみましょう！



## 「世界」のワイン

外観に劣らず、エントランスも近代的な造り。受付をすませ、中を進むとヘッドホンと端末が配られました。説明に沿って端末を操作すると日本語が表示されました！フランス語や英語だけでなく、日本語を含めた8か国ほどの言語に対応しています。端末以外にもワイン文化を紹介する音声やモニターなども日本語に翻訳されます。

## 五感で楽しむワインの魅力

この博物館に決められたルートはありません。古代から現代までのワインの歴史、宗教とワイン、文学の中のワインなど…。様々なテーマ、多角的な視点からワインを知ることができます。また、視るだけでなく、直接展示に触ったり匂いを嗅いだりしてワインの魅力「体験」することができます。この「体験」することの重要性は、日本館で行ったイベントで私たちが学んだものでした。また、世界中のワイン文化を発信するというこのミュージアムの役割は、りんごの世界農業遺産への登録を目指す弘前の参考になるのではないのでしょうか。今回のボルドーでの活動から、弘前で私たちに何ができるか、そのヒントを得ることができました。



▲ワイン製造者の声を「聴く」展示



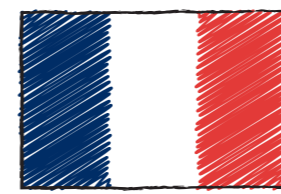
▲ガラスの中のオブジェの匂いを「嗅ぐ」展示

# アルカション

アルカションはフランスの高級避暑地の1つです。ボルドー市内から約60キロ。交通の便が良く、ボルドー市内からT.G.V.一本で行くことができます。列車やバスの本数も多いです。

湾沿いには、アルカッションネーズ(Arcachonnaise)という、アルカション湾独特のスタイルの別荘建築物が立ち並び、街は春、夏、秋、冬とテーマ設定され4つに分かれています。周辺では牡蠣が養殖されており特産品となっています。また、ブルターニュの漁業者が創業した老舗コンセルヴリ(缶詰工場) La belle-iloiseの直営店もあります。海と街が織りなすアルカションの風景。エッフェル塔の設計士、ギュスターヴ・エッフェルが設計した展望台に登れば、美しいアルカションの街を一望することができます。

三方を海で囲まれた青森県。アルカションからインバウンドに関して学べることは多そうです。



# フランス直送便 Vol.3

Bonjour! 弘前グローバル・アクションです! 私たちは2016年10月20日から1週間、フランスのボルドーで弘前のシティプロモーションを行ってきました。

「弘前」を発信しただけでなく、ボルドーの魅力を受取ってきた私たち。現地でのどのような活動をしてきたのか、そしてどのようなことを得たのか、ご紹介します。

編集・執筆: 山内まどか 弘前大学人文学部3年  
執筆: 上野由加里 弘前大学人文学部3年  
野呂 愛華 弘前大学人文学部3年  
山口 風太 弘前大学人文学部3年  
発行責任者: 弘前大学人文社会科学部  
「弘前×フランス」プロジェクト  
代表・熊野真規子

## Connaissez-vous bien BORDEAUX? ボルドー、って知ってる?



## フランス9番目の都市・ボルドー

フランスの南西部に位置し、世界有数のワインの生産地として名を馳せるこの街は、港街としても有名です。一説によると、ボルドーという名前は「Bord(縁)+de l' eaux(水)=水の縁」が由来だとか。街の歴史も古く、紀元前5世紀に遡ります。歴史的建造物に定められた350もの建築が立ち並ぶ姿は壮観。哲学者のモンテーニュとモンテスキューの生誕の地でもあり、歩くだけでその街の「深み」を肌感じます。

日本から飛行機で約13時間、パリーシャール・ド・ゴール空港からT.G.V.を乗り継いで約3時間の計約16時間の旅の先に、ボルドーは見えてきます。

◀ボルドーを代表する観光名所の一つ「Miroir D'eau」(フランス語で「水鏡」という意味)。2006年、景観作家のMichel Corajoudによって作られました。

## 私たちがボルドーに注目する理由

さて、なぜ私たちがボルドーで弘前のシティプロモーションを行ってきたのか、気になりませんか？ 実は地方都市ボルドーは弘前の参考になる街！ というだけにとどまらず、弘前の文化をアピールする拠点としても非常に期待が持てる街なのです！

### 1.日本語学習者の多い街



▲フランスはそもそも、毎年新しく日本語・日本文化を専攻する学生が2000人以上生まれている国。そんな中、ボルドーには弘前大学との協定校、ボルドー・モンテーニュ大学があり、日本語・日本文化を専攻している学生は1年生だけでも200~300人(全国の新規専攻生の10~15%)。つまりボルドーには常に500人以上の日本語学習者が在籍しており、日本文化の需要度が高い街であるといえます。

### 2.3つの世界遺産が交差する街



▲ボルドーは「月の港」「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」「ワイン街道」と、3つの世界遺産が交差しており、国内外から多くの観光客が訪れています。「白山山地の玄関口」として、弘前は有機的なプロモーションを行うことができる街。複合的な魅力のあるボルドーへの手がかりを得ることができるのでは？ さらなるインバウンドの獲得への可能性も。

### 3.フランス人が住みたい街ランキング1位



▲フランスの国内調査によると、「フランス人の住みたい街ランキング」において第1位を獲得。2006年からボルドー市長のアラン・ジュベがより暮らしやすい公共空間づくりに尽力し、住みやすい街に。それにとめない若者の移住者が増加しています。実際に街へ繰り出してみると、伝統的な街並みの中にトラムなどの新しい設備が自然に溶け込んでいるのが分かります。まちづくりや空間デザインへの新たなヒントが掴めるかもしれません。

### 4.人口約24万人



▲1980年代、弘前とボルドーの人口は同じく約18万人。しかし現在は、弘前の人口が約17万人であるのに対してボルドーは約24万人、と大きな差が。人口的に見て、かつてはさほど変わらない規模であった両都市にどのような違いが生まれていったのでしょうか。ボルドーはそのような視点からも私たちに示唆を与えてくれる街。弘前のさらなる発展のために、今後のボルドーの動向に注目していきたいですね。